

鈴淵れいぶちの由ゆ来らい

鈴淵のすぐ西側を流れている川があります。この川は、むかしは曲りくねっていて、そのあちこちに沼があったといわれております。

鈴淵の村前のあたりに沼がありました。その辺の地名を、字（あざ）スズブチと呼んでいます。月夜の晩に、この沼の近くを通ると、鈴をふったような音が聞こえてくるので、村人は、この辺の地名をこういうようになりました。

むかし、ある鈴淵の男が、夜、魚取りにこのスズブチに出かけました。夜中に魚取りに行くことを、ヨヅキに行くといっています。

この夜は、おぼろ月でした。葦あしやカヤや草が、あたりには密生しておりましたので、おぼろ月のうす明りをたよりに、魚を取りながら、スズブチに近づきました。

スズブチに近づくにしたがい、カランコロン、カランコロンという鈴の音のような音が、